

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200171		
法人名	株式会社アクタガワ		
事業所名	アクタガワ ハートフルホーム八幡 認知症対応型共同生活介護		
所在地	静岡県静岡市駿河区有東2-12-10		
自己評価作成日	平成 31年 1月 25日	評価結果市町村受理日	平成31年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/222/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kanji=true&liqvosvoCd=2294201021-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 31年 2月 28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、1階に小規模多機能型居宅介護サービス、2階にグループホームを併設しています。家庭的な雰囲気の中、入居者も職員も、訪問くださる方々皆が笑顔で過ごせますように心掛けています。外部講師をお招きしてのカルチャー教室実施や、小規模との合同イベントの実施もしています。介護を通じ、地域に貢献できますよう努めると共に、地域行事にも積極的に参加し地域の方々が気軽に立ち寄りやすいように交流活動を開催しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「明るく笑顔の絶えないもう一つの家」という理念に沿って、職員は家族に対するのと同じ思いを持って利用者に接している。地域との関係は良く、運営推進会議に3地区の自治会会長が参加していて、行事などの情報を聞いて参加している。施設の祭りや地域の行事に双方で楽しめるよう連携している。歩いて行けるコミュニティサロンに天候を見て出かけている。お茶の接待を受け、脳トレや手作業などを住民と一緒にやっている。施設に住民がカラオケに訪れたり、公民館や公園に出かけ交流する等地域に暮らし続けられるような支援を行っている。利用者は小規模のイベントに出かけたり外出などメリハリのある生活を送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るく笑顔の絶えない、 もう一つの我が家」を理念に お客様の尊厳を第一に考え、家庭的な 環境の下、日常生活の支援を行っている。	開設当初からの理念は管理者から会議など の中で職員に伝えている。職員は法人の理 念の記載されている小冊子を携帯しチーム 会議で唱和している。職員は理念を共有し、 利用者に家族に対するのと同じ思いを持って、 笑顔で温かい対応をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自身が地域の一員として日常的に交 流している	地域の人々と気軽に挨拶を交わし、 いつでも立ち寄れる環境を心掛けている。 地域行事のイベントお手伝いや、地域の方 をお招きしての施設行事を開催している。	毎月カラオケの日には地域の住民の参加が あって交流している。歩いて行ける地域のコ ミュニティサロン「なごみ」に出かけるとお茶の 接待を受けて、地域の住民と脳トレや手作業 などやってきている。近くの公民館や公園に も出かけ、交流する機会は多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	地域の老人会で、認知症と予防の教室を 担当させていただいたことも恒例となっ ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評 価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かして いる	状況やイベントの報告をし、地域との 交流に役立つ情報の提供を受け、 積極的に交流を図っている。	3地区の自治会長や民生委員・地域包括支 援センター職員・家族の参加があつて小規模 多機能事業所と合同で定期開催をしている。 地域からの情報の提供があり、施設と連携を 図れる会議になっている。2回は施設の防災 訓練とあわせて行なっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	隣接している地域包括支援センターに、 事業所の実情や、取り組みを報告・相談 したり、地域の介護ニーズを伺ったりと 連携が図れるよう努めている。	ケアマネジャーが市支援課と生活保護受給 者の件で連携を取っている。月1回市介護相 談員が訪問している。市からファックスで研修 案内が来ると職員に伝え、行ける人が参加し ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準 における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をし ないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言をし、身体拘束をしない ケアについて研修を行っている。身体拘束 等適正化検討委員会を行い、新入社員にも 研修も行っていきます。	3ヶ月に1度身体拘束適正化検討委員会を 行い、議事録はサインして全職員で共有して いる。納得してもらえるような言葉かけで不穩 にならない対応をしている。事例を挙げて話 し合いを行い、身体拘束をしないケアに努め ている。センサーの使用はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につ いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、 防止に努めている	虐待防止についての研修を行うと共に、 自己振り返りの機会も設けている。 チェック表を用いて行い、個人または少人数 での研修も行っていきます。		

静岡県(アクタガワハートフルホーム八幡)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	隣接している地域包括支援センターに、相談し、連携が図れるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をとっていただき、内容について説明・確認をさせていただきよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員を交え、意見交換を行うと共に、定期的なカンファレンスを通じて、対応の周知を図っている。	年1回の法人家族アンケートの結果は申し送りノート等に記入し、検討して反映させるようにしている。家族の面会時に様子を伝えるなどして、意見や要望を聞いている。「リハビリパンツやパッドの残量を早めに知らせて」などの要望に応えている。聞いたことは記録し全職員で共有する仕組みがある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のチーム会議等で、職員の意見や提案を聞く機会を設け、担当者の会議にて議題・課題としてあげることができる仕組みがある。	職員は日常的に管理者に物品の購入や利用者のケアの仕方の提案等言いやすい関係になっている。毎月のチーム会議で意見は多く出ている。職員は利用者の思いを受け止め、納得してもらってフロアに「〇〇駐車場」と紙を貼り、歩行器の置き場所になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年各自の目標管理シートを作成し、前期・後期に分けた評価を行い目標に向かっていく。労働時間においては、個人に合った就業時間を選べる制度を有効に活用している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップ(個別)、キャリアパス、マナー等の研修を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の受講や、事業所連絡会の出席をし、他事業所との交流や、意見の交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できる限り寄り添いながらの対話を心掛けている。職員間で情報共有ができるようカンファレンスを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	情報交換に努め、望ましい対応についてご意見を伺っている。 入居前にお試し期間(1週間)を設ける事もでき、ご意見・ご希望をお伺いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談、プラン提案を経て、ご意見を伺いサービスの提供につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	対話・会話を重視し、ご意見を伺い日常生活をレクリエーションとして捉えた働きかけに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族への報告や相談を大切にしている。 情報の交換により、望ましい対応の思索に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域交流を積極的に行い、行事に出向いたり、地域の方々を施設にお招きしたりし、馴染みの環境が離れてしまわぬよう支援している。	利用者は地域からの入居が多く、地域行事や施設行事・日常的にコミュニティサロンや団地の公園に出かけている。住民との交流があって、馴染みの人や場所との関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	参加型レクリエーションの実施や、移動時の協力を働き掛け、関わり合える支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設行事のご案内等、声掛けを心掛け疎遠になってしまわぬよう意識している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴などの情報収集をし、対話による把握も含めて、個別対応の検討に活かしている。	日常の会話の中から出る言葉を聞いて思いや要望を把握している。新聞のチラシやテレビを見て食べたいものや行きたい場所などを言ってくれる。聞いた職員は申し送りノートに記入して全職員で共有している。個別に表情を観察し、気持ちを理解できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の語らいや、ご家族との会話の中から情報の収集をし、ケアへと結び付けられるよう、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	働きかけを重視し、その方がその気になれるお誘いの仕方についてを職員間で大切にしている。 無理のない動作と行動への付き添いや見守り、介助に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チーム会議、カンファレンス等の場において、職員による観察や、ご家族からの情報を集め、対応やプランに反映できるよう努めている。	本人の意向は前もって聞いている。サービス担当者会議に家族の参加があり、家族が欠席の場合は電話で聞いている。担当職員が作る個別対応表を基に職員で話し合い、必要があれば医師・看護師の意見を取り入れて介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や個別介護経過記録を用い情報の共有に活用している。 定期的・変化時のカンファレンスを通し、計画見直しの検討をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じた対応ができるよう努めている。		

静岡県(アクタガワハートフルホーム八幡)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域代表、民生委員を、運営推進会議や施設相談協力委員会にお招きし、住み慣れた地域の中で、安心して暮らしていける支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	GH主治医とは24時間連携の体制が整い、定期往診の他にも、随時相談や往診対応を受けられる。	全員が協力医で月2回の往診と24時間オンラインの相談や緊急時の往診がある。他科受診は情報を伝え家族が対応し、結果は聞いて経過記録に記入している。必要があれば協力歯科の往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪看との医療連携体制が整っており健康管理や、看護チームの随時対応が受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院治療時や、退院後の処置・対応について、主治医の協力が得られる体制が整っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	対応に関し、できる事とできない事について説明を行っている。状態の変化があった際は、その後の望ましい対応について話し合っている。	契約時に法人の看取りの指針を基に体制についてや、出来ること、できないことの説明をしている。医師の判断の下、医師・家族・事業所で話し合い、方針を決めている。状態の変化に伴い家族の意向の再確認をし、医療連携と家族の協力があって事業所での看取り支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを基に対応研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを基に研修を行い、災害想定避難訓練・事業継続計画の訓練を行っている。	5月と11月に運営推進会議時に火災を想定した訓練を行っている。11月には消防署が立会いの下、自動通報システムの稼働・水消火器・搬送訓練を行った。地域と協力体制作りの話をしている。夜間想定訓練の実施はしていない。	災害は何時起こるか解らないので、地域の人や消防署の来所時に夜間想定訓練を実施し、利用者や職員の安心・安全に繋がる取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を損なわない言葉かけや、対応ができるように研修項目に取り入れている。	職員は定期的に接遇等のスキル研修を受けている。敬語を使うことで距離感を感じさせないよう、利用者の状態・状況を見て場面によって適切な対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定のできる機会を持ち、時には選択式を用いて働き掛けるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り寄り添いながら対話をし、ご希望に添えられるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月毎に、訪問理美容を利用できる日を設定し、希望により対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も共に同じ食事を摂り、介助が必要な時には隣席でカバーしている。また、現有能力に応じて支度・片付けを共労している。	職員は交代で手作りの食事を提供している。月1回の昼食やおやつレクでは希望を聞いて、ちらし寿司などの行事食・季節感ある食事等作っている。玉葱の皮むき・食器洗いなどやおやつ作りの時に出来ることを一緒にやっている。外食で回転寿司などに行くこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事量を記録し、把握している。メニュー・食材管理の業者と打合わせ調整を図っている。		

静岡県(アクタガワハートフルホーム八幡)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシ、スポンジブラシによるブラッシングや、洗浄液による口腔洗浄を実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限り自立に向け支援している。排泄チェック表を活用し、声掛けや時間誘導による対応もしている。	布パンツにパッドやリハビリパンツ使用でトイレでの排泄支援をしている。食前・食後には声掛け誘導している。排泄チェック表を見て早めに「トイレへ行きましょう」ではなく、何気なく廊下を歩きながらトイレに誘導する対応で失敗が少なくなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防も考慮の上、運動・活動への働きかけをしている。また、主治医と相談し、お薬による調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望・要望をお伺いした上、柔軟に対応できるよう努めている。	月・水・金曜日を入浴日と決め、入浴の時間帯に職員を1人増やすことで全員が入浴している。入浴日以外に浴室の消毒をし、清潔保持に努めている。同姓介助の希望は特になく、拒む人も時間を変えて声掛けすることで入浴している。季節に柚子湯もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できる限り自宅での生活スタイルに沿った対応ができるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は、表を用いて確認・管理をしている。お薬の情報も職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現有能力に応じ、役割が持てるよう働きかけている。		

静岡県(アクタガワハートフルホーム八幡)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域行事への参加も、地域の協力を得ながら、行っている。天候・気候やその日の体調を考慮の上、散歩へのお誘いをしている。	天候を見て近くの団地の公園やコミュニティサロンに行っている。職員の買い物と一緒に行くこともある。外出レクで月1回はドライブで出かけている。フロアから段差なく出られるペランダで外気浴をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持や管理等は行っていないが、ご家族の立替金として使用させて頂き、お買い物等ある場合は、職員が付き添い必要分使用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じ、ご家族の承認を得て、対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して過ごせる空間作りを心掛けている。個人作品の展示や、写真の掲示も行い、季節感をもてるよう努めている。	フロアの掲示スペースに利用者の作品が飾ってある。階段の壁には利用者の行事の写真が飾ってある。2つのテーブルの席位置は利用者の状態によって柔軟に決めている。テレビを消して和める音楽や唱歌を流し口ずさんでいる。日当たりが良く、食事の匂いや外の風等五感を感じられるように努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間に、和室やソファを備え、自由に活用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものがあれば、持参していただくようにしている。	各居室に洗面台が設置され、化粧品やブラシ等が置かれてある。馴染みの机・椅子・筆筒・写真を持ち込み、居心地のよい居室になっている。ハンガーレールに洋服と手作りカレンダーが吊るしてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室には目印があり、手摺を利用し自立した生活が送れる環境が整っている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	5月と11月に運営推進会議時に火災想定で訓練を行って、地域の方に協力を仰いでいるが、夜間想定や風水害の想定が実行できていない。	夜間1人でも対応できる方法を全職員で見出し、夜間想定を実際に行い・練習し、夜勤を行う職員は最低限対応できるようにする。	地震や火事等の災害時の対応をマニュアルにて確認し、想定を行う。夜間対応は、夜勤を行う職員全員対象で、夜間災害時想定を実践で年3回行い、地震発生時・火災発生時の避難経路確認・誘導を行う。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。